開幕戦登板の新人・上原

痛打浴び 苦いデビュー

雪辱へ「次も逃げずに勝負」

徳島のルーキー・上原優人投手(18)が初マウンドで洗礼を浴びた。開幕の香川戦、0―2とリードを許した八回2死から登板。最初の打者、4番の宋に内角直球をレフトスタンドに運ばれた。「この世界の厳しさを痛感した」

痛恨の1球だった。1ボール1ストライクからの3球目。「甘くなってしまったが、まさかスタンドまで運ばれるとは」。滞空時間の長い弾道を見届けると2度、3度とマウンド上で首をかしげた。

内角というコースは捕手の要求通り。ただ高さを間違えた。「膝元に投げてファウルを打たせたかった」が、うまくコントロールできず、ボール2個分高く入ったところを痛打された。

続く打者・中村にもフルカウントから中前へ運ばれた。「落ち着け」「優人、自分の投げた球を投げろ」―。内野手から声が飛ぶ。「周りの声を聞いて、なんとか落ち着くことができた」。3人目を三ゴロに打ち取り、ほろ苦い初マウンドは終わった。

開幕戦でプロ初デビューした徳島インディゴソックスの上原優人投手=20日・レクザムスタジアム

試合後から腕の振りを入念に確認し「徐々に良い感じになっている」と好感触も得ている。

「いい勉強だったと言えるようにしたい。次のマウンドでも逃げずに打者へ向かう」。細かな制球ミスを逃してはくれない一段上のレベルを初舞台で体験できたことをプラスに捉える。

コロナ禍で開幕が遅れ、今季は連戦が多い過密日程となる。中継ぎの役割が重要だということも承知している。「自分が良い投球をすることでチームを楽にしたい」

地元・生光学園高出身。無観客が解ければ応援に行くと言ってくれる仲間や知人も多い。「周囲の期待に応えられる投手になっていなければ」。1球の重さを胸に刻み、雪辱に向けて腕を振る。

(山岸章利)